

健康起因事故防止のために

OCHIS 健診結果を効果的に活用

ワーク（OCHIS）は11日、「健康起因事故防止のための健診結果の効果的な活用方法について」データに基づいたハイリスク者の見える化」をテーマに、第11回OCHISセミナーを開催。セミナーでは大阪をはじめ、東京など全国から参加者が集まつたほか、運輸に特化した健診システム「運輸ヘルスケアナビシステム」

か披露された。開会式では、いさつを行った武田理事長は、「健康起業事故を起こす自動車の運転者が増えている中で、今後は、もう一歩踏み込んだ検診結果の効率的な活用方法について取り組んでいく」と述べた。

因事長國た永 述て果み、運因裕

事故防止対策」について解説。事業用自動車の事故調査委員会の活動状況や軽井沢スキーバス事故を受けた監査の緊急実施などについても説明した。続いて、土原記念労働科学研究所の酒井一博所長が「運輸事業者をバックアップするための社会的サポートの必要性」と題し、生活習慣病・メタボルチカル不全・認知症の予防や運輸業界における勤務環境改善などを題

に「いて」では定期健康診断のフォローに関する、事業者ができな
い部分をサポートする運輸に特化した健診システムとして、「運輸ヘルスケアナビシステム」を初めて発表。専門的な知識がなくても指導対象者が簡単にピックアップでき、事業者が自ら行う指導履歴を残すことが可能となる。事業者から紙媒体・エクセルなどで健診結果と睡眠時無呼吸

OCHI'Sの本音
子副理事長と保健師の
黒田悦子氏が講演した
「データに基づいたハ
イリスク者の見える化

説
し
た



者代表としてコアジ物
流代表取締役社長の堂
坂佳延氏が講演した。
健康への取り組みとし
て社内にフィットネス
施設の完備、SASス
クリーニング検査を全
社員対象に実施し、治
療困難者には適切な配
置転換を実施したこと
を紹介。また同社で
は、家族との直接的な
コミュニケーションの
場としてバーベキュー
大会や芋掘り、みかん
狩りなどを実施してい
る。

の結果が公表され、回答者のうち、既に実施していると回答した人以外全員が、システムを使用したいと回答した。